

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-230111

(P2004-230111A)

(43) 公開日 平成16年8月19日(2004.8.19)

(51) Int. Cl.⁷

A45D 44/00

A01G 13/00

F I

A45D 44/00

A01G 13/00

Z

302Z

テーマコード(参考)

2B024

審査請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2003-59178 (P2003-59178)

(22) 出願日 平成15年1月30日(2003.1.30)

(71) 出願人 591163373

加藤 増男

東京都練馬区関町南4-5-22

(72) 発明者 加藤 増男

東京都練馬区関町南4丁目5番22号

Fターム(参考) 2B024 AA04 DA03 DB08 DC01

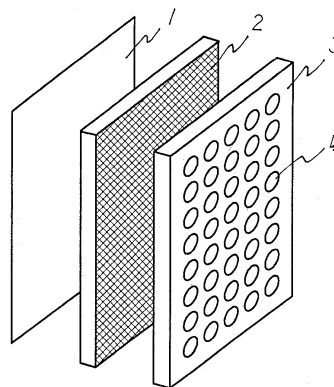
(54) 【発明の名称】 天然植物繊維カボックを利用した脂吸着化粧用パッド、苗床シートおよびカボック混入食品

(57) 【要約】

【課題】 顔に浮き出た脂を吸着する従来の脂吸着利を使用すると、化粧水を付けるときに手の脂を顔に擦り込むことになる。

【解決手段】 穴を開けた天然植物繊維カボックシートと化粧水を含ませた不織布と台紙より構成した脂吸着化粧用パッドを作成し、脂を吸着すると同時に化粧水を供給する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

穴を開けた天然植物繊維カポックシートと化粧水を含ませた不織布と台紙より形成されたことを特徴とする天然植物繊維カポックを利用した脂吸着化粧用パッド。

【請求項 2】

合成樹脂の袋に封入した使い捨て化粧用品としたことを特徴とする請求項 1 に記載の天然植物繊維カポックを利用した脂吸着化粧用パッド。

【請求項 3】

天然植物繊維カポックシートに一定間隔に穴を開けて苗床の土壌保護、水分補給、保温、霜害凍害防止をすることを特徴とする天然植物繊維カポックを利用した苗床シート。

10

【請求項 4】

天然植物繊維カポックシートを粉末に加工し、食品に混入して体内の水分を吸収することなく体内の余分な脂肪を除去することを特徴とするカポック混入食品。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は顔に浮き出た脂を吸着し、化粧水で保湿する化粧用品としてのパッドおよび農業用の苗床保護シートに関する。

【0002】**【従来の技術】**

20

顔の脂を取るために天然植物繊維や化学繊維製品の脂吸着シートが使用されている。顔の脂を拭き取った後で、化粧水やクリームを手にとって顔に塗り込む。手の平にも脂が付いているが、手の平の脂を脂吸着シートで拭っておくことはほとんどない。このため、顔に手の平の脂を化粧水やクリームと一緒に擦りつけることになる。

【0003】

苗床シートに関しては、苗床を豪雨、霜害、凍害より防ぐためにビニールシートに穴を開けて穴から苗を出す方法が農業で使用されている。

【0004】

食品に植物繊維を混入して便通の補助とする食品は従来より提供されている。しかし、植物繊維を供給すると共に、体内の余剰脂肪を除去する、添加植物繊維は提供されていない。

30

【0005】**【発明の解決しようとする課題】**

請求項 1 および請求項 2 に記載の天然植物繊維カポックを利用した脂吸着化粧用パッドの開発を必要とする従来の技術の課題がある。普通の人でも夜なべや徹夜をしたり、長時間乗り物に乗っていたりすると顔に脂が浮き出てくる。女性は顔に油があると化粧品がなじまないため顔の脂を落とすために洗顔したり、脂吸着シートを使用している。顔の脂を落とした後、化粧水やクリームを塗り込んで保護している。しかし、化粧水やクリームを脂のついていない手で塗り込むため、再び顔に脂を付けることになり好ましくない。顔に水分を与えておくためには、顔の脂のみを除去し、同時に水分の補給ができれば最適であるが、従来の技術では不可能である。

40

【0006】

請求項 3 に記載の天然植物繊維カポックを利用した苗床を必要とする従来の技術の課題は、従来、苗床に使用している天然植物繊維の素材が水を含むため、地面に水を供給する前に苗床の天然植物繊維の素材が水を吸ってしまう問題点があった。効率よく水を地中に供給し、苗床からの蒸発を防ぐには天然植物繊維の素材が水を吸わない方が好ましい。化学繊維を使用した場合、撥水性のある繊維が利用できるが、天然植物繊維でないため、土に同化しないで残存する問題点がある。

【0007】

請求項 4 に記載のカポック混入食品の開発を要する従来の技術の課題は、近年の脂分の摂

50

取に対するコレステロールの増加に対する対応が、個人個人の節制意志に基づいている点にある。肉類や脂分の多い食物を摂取するために、常にコレステロールや中性脂肪を気にしてはストレスが溜まり精神衛生と健康上好ましくない。そこで、脂肪分のある食物を摂取しても、過剰脂肪分を体内から排出する方法が求められている。

【課題を解決するための手段】

天然植物繊維カポックは極細の繊維の集合体で中空構造であり、撥水性があり、浮遊性に富み、油吸収能力は1グラムの重量に対する体積で40グラムの油を吸収する能力を持っている。この油を吸収し、水を吸収しない性質を利用して、本発明においては新規発明の化粧用品、苗床、食品を提供しようとするものである。

【0008】

請求項1および2に記載の天然植物繊維カポックを利用した脂吸着化粧用パッドにおいては、防水シート1の上に化粧水を含ませたシート2を張り、更に化粧水を含ませたシート2の上に天然植物繊維カポックシート3を張った構造の化粧用パッドである。天然植物繊維カポックシート3には多数の穴4を開けることで脂分の吸着面積を増やすことができる。表面に張ったカポック3は顔の脂を吸収し、カポックシート3内に蓄積する。一方、水分は蓄積しないため、化粧水を含ませたシート2から滲み出した化粧水は自由にカポックシート3内を通過し、顔に化粧水を供給することができる。化粧水を含ませたシート2の裏側には防水シート1が張ってあるので化粧水を含ませたシート2の裏側に化粧水が滲み出すことはない。防水シート1を張る代わりに、化粧水を含ませたシート2の裏面を防水加工してもよい。このように、顔の脂を吸収しながら化粧水を供給できるので、化粧が素早くでき、皮膚が化粧水をはじくこともなくなる。カポックシート3に穴4を開けると皮膚への接触面積が拡大し、脂の吸収率も向上する。

10

20

【0009】

請求項3に記載の天然植物繊維カポックを利用した苗床は苗の育成に効果的である。カポックが雨を苗床の地面に浸透させ、太陽光を遮断するので、苗が適温で育ち、水分をシートに含むことが無いため根腐れを起こさない。

【0010】

請求項4に記載の天然植物繊維カポックを粉末体にしてカポック混入食品を作成すると、カポックは体内で脂分を吸収し、カポックは消化しないため不純物として脂と共に体外に排出することができる。しかも、水分は吸収しないため、体内に入った余剰な脂のみを排出することができる。このため、コレステロールの減少、中性脂肪の減少に寄与する。

30

【0011】

【発明の実施の形態】

発明の実施の形態につき実施例にもとづき図面を参照して説明する。

図1は請求項1および2に記載の天然植物繊維カポックを利用した脂吸着化粧用パッドを分解した状態を表す。防水シート1の上に化粧水を含ませたシート2を張り、更に化粧水を含ませたシート2の上に天然植物繊維カポックシート3を張った構造を表している。ここに示す図1では、天然植物繊維カポックシート3に多数の穴4を開けて吸着面積を増やしている状態を示す。穴4は脂の吸着面積を増やし、化粧水の通過を補助しているが、穴4は絶対必要なものでなく、穴4を設けなくても使用することができる。

40

【0012】

図2は請求項3に記載の天然植物繊維カポックを利用した苗床に関する。苗床11の上に穴13を開けた天然植物繊維カポックシート12を敷き、穴13から苗14が育つようにしたものである。

【0013】

請求項4に記載の天然植物繊維カポックを粉末体にして混入する食品は油分を有しない食品に使用される。

【0014】

【発明の効果】

本発明になる天然植物繊維カポックを使用した脂吸着化粧用パッドを使用すると化粧を手

50

早くでき、脂分を取りながら化粧水を補給できる。また、携帯にも便利である。

【0015】

本発明になる天然植物繊維カボックを利用した苗床を利用すると、水分の補給と太陽光の遮断が適当に行える。

【0016】

本発明になるカボック粉末体混入食品はダイエット効果、中性脂肪の減少効果およびコレステロール減少効果がある。

【図面の簡単な説明】

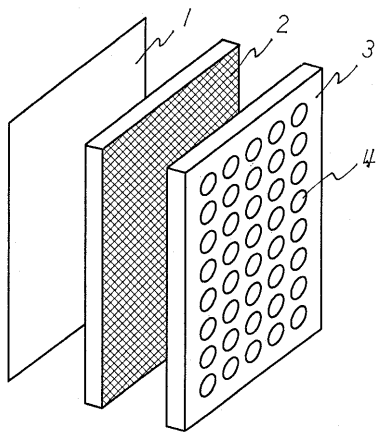
【図1】請求項1および2に関する説明図である。

【図2】請求項3に関する説明図である。

【符号の説明】

- 1 防水シート
 - 2 化粧水を含ませたシート
 - 3 カボックシート
 - 4 穴
- 11 苗床
 - 12 カボックシート
 - 13 穴
 - 14 苗

【図1】



【図2】

